

2007年 6月26日(火)・27日(水) — 第1回・第2回 —

プロジェクト四国ブロック 田んぼの生きもの調査



ご神木のもとで熱心に調査

四国初の調査 4県の協力でスタート

四国ブロックとして第1回の調査は、高知県香美市土佐山田町の大塚俊明さん(48)の無農薬・無化学肥料栽培田で行われました。あたりは、小字名で御神母(おいげ)と呼ばれる地域で、田んぼの一角にカゴとエノキの巨木がそびえ、根元に祠が並ぶ、という神々しいたたずまいでした。

ときには「変わり者」扱いをされながらも無農薬栽培で試行錯誤を続けてきた大塚さん。岩淵成紀氏の深水湛水(田んぼの水深を深くして雑草を抑える)を実践してきました。今は水深を深くすると外来種の「ジャンボタニシ」が増加するのが悩みの種です。

田んぼの生きもの調査プロジェクト四国ブロック

産地紹介: 四国4県のコープ自然派、高生連などの消費者団体と有機農業研究会、土佐自然塾などの研究団体、無茶々園などの生産者団体計11団体が07年2月、稲葉光圀氏、岩淵成紀氏を招いて開いた学習会を契機に立ち上げた横断的な組織。06年に兵庫県豊岡市の田んぼの生きもの調査に参加するなどして準備してきた。4県で互いに協力しながら調査を開始。

調査日時: 2007年6月26日・27日

参加人数: 延べ約100名

主催: 生きもの調査プロジェクト四国ブロック

参加団体: コープ自然派こうち、高知県有機農業研究会、土といのち、有機のがっこう土佐自然塾、高生連(事務局)、コープ自然派徳島ほか

調査地点: 高知県香美市土佐山田町・御神母(おいげ)・大塚俊明さんの無農薬無化学肥料栽培田、徳島県名西郡石井町浦庄下浦・横田光弘さんの自然農法田

調査項目: 基礎調査、生息環境調査、カエル調査、草花調査、イトミミズ・ユスリカ調査

2回目の調査は徳島市の西郊、石井町の横田光弘さん(42)の自然農法田で実施。10年ほど前に「まったくの素人」で農業を始めて以来、「できれば稲ワラもすき込みたくない」というくらい、「何も入れないこと」にこだわります。農薬はもちろん有機肥料さえ無投入。収量は上がりませんが、生息環境調査のデータが示す田んぼのカルテは健康そのもの。「湛水栽培は自然に反しないため」と言う横田さんは、岩淵氏に熱心に質問していました。7月に香川、愛媛でも実施を計画する、事務局・高生連の松林直行さんは「今年1回で済む話ではない。ねばりづよく続けられれば、ジワッと広がるよ」。



調査地: 高知県香美市土佐山田町 / 徳島県徳島市石井町

結果発表！

四国プロジェクト 第1回調査 2007年6月26日・27日			
水田名		土佐山田町	石井町
農法	水管理	春水1ヵ月	冬期落水
	耕し方	耕起	不耕起
	農薬・化学肥料	無・無栽培	自然農法
土のなかの生きもの調査	イトミミズ	3,250,000	165,00
(10aあたり匹)	ユスリカ(幼虫)	415000.0	1,332.50
生息環境調査	天気	晴れ	晴れ
	気温()	31.0	3
	水温()	24.30	30
	水深(cm)	9.000	5
	pH(酸度)	7.30	7.8
	EC(電気伝導度、mS)	0	0.17



栽培方法などについて説明する大塚俊明さん

見つけた生きものたち

無農薬無化学肥料栽培田・草花:(白色)ナズナ、姫ジョン、白ツメ草、(黄色)田ガラシ、カタバミ、蛇イチゴ、小鬼田平子、野ポロギク、(赤色)ネジ花、塔花、アメリカフウロ、(青色)ツユ草、大犬ノフグリ、立犬ノフグリ、ハナイ花、(その他)ギシギシなど計 27 種類

自然農法田・草花:(白色)耳菜草、小ハコベ、姫ジョン、(黄色)田ガラシ、カタバミ、小鬼田平子、母子草、(青色)サギゴケ、ツユクサ、大犬ノフグリ、キュウリ草、(その他)オオバコなど計 34 種類

無・無田・カエル(100m 当たり): トノサマガエル 3.65 匹、アマガエル 4.87 匹、ヌマガエル 3.65 匹

自然農法田・カエル(100m 当たり): トノサマガエル 2.40 匹、アマガエル 2.40 匹、ツチガエル 0.80 匹



自然農法に取り組む横田光弘さんと田んぼ



データを読む！ 岩淵 成紀氏(NPO 法人・田んぼ 理事長)

大塚さんの無・無栽培田 = 田んぼの中に高低差があり、高いところではコナギが多く、酸化還元電位もプラスになっている。田植えの 45 日前から稲刈りの 15 日前まで常時湛水しているが、最大 10 cm くらいの深水にすれば、雑草ももっと減るのではないかと。イトミミズの数も 325 万匹と、やや少ない感じだが、ピークの後なのかもしれない。前作のプロッコリーや隣の慣行栽培の影響もあるかもしれない。

横田さんの自然農法田 = 基肥も追肥も農薬もゼロ、ゼロ、ゼロというのは見事。赤米(古代米)で反収 300 kg というが、コナギやオモダカを抑えれば、もっと穫れる。田植えの 3 日前に水を入れているが、1 ヵ月前から湛水し、1 回雑草を生えさせた後、田植え前に練り込み、田植え後も深水管理すれば抑草できる。イトミミズよりユスリカが多い、滅多にない田んぼなので、みんなで支えてほしい。